

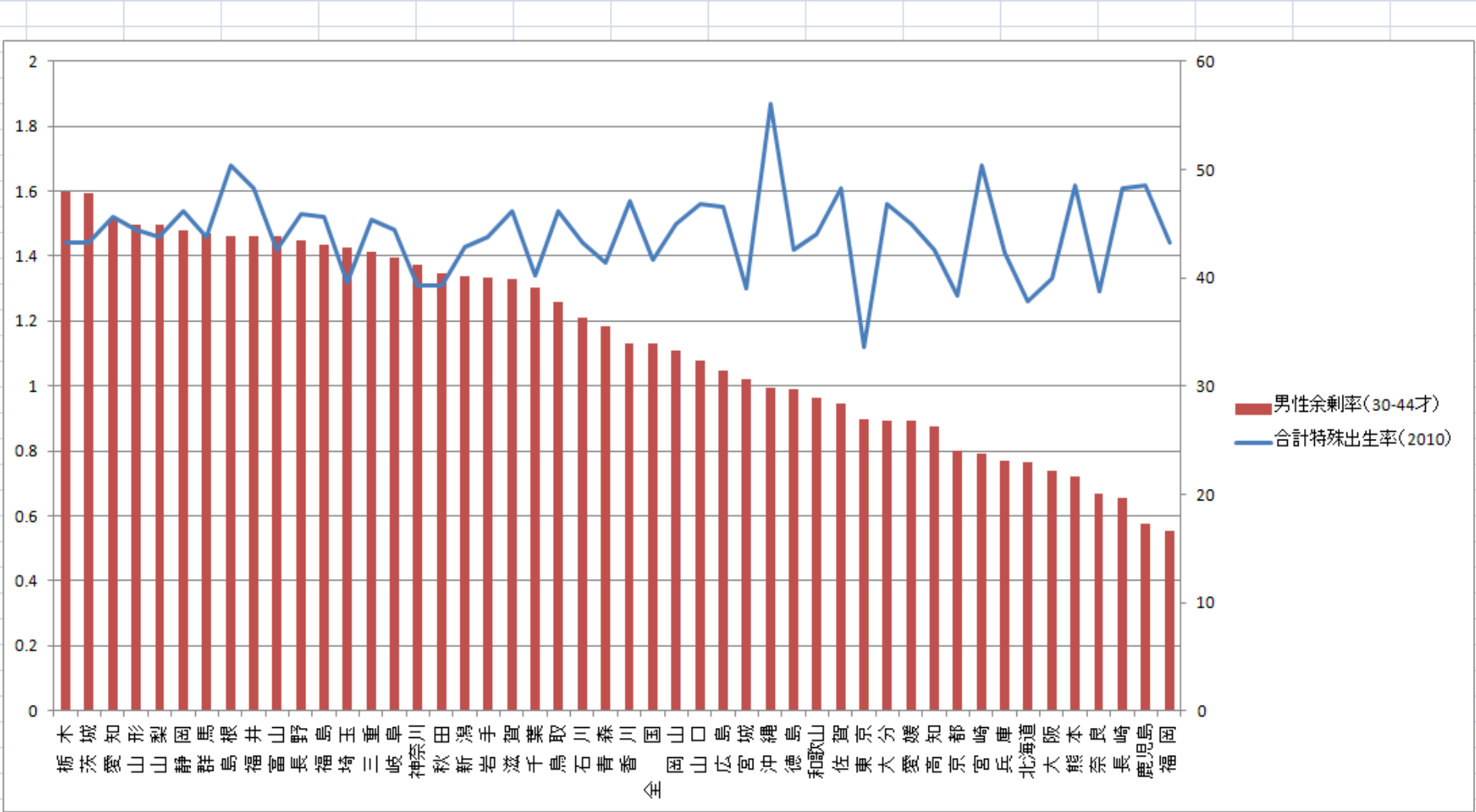
まち・ひと・しごと地方創生本部 地域少子化対策検証プロジェクト

未婚者の状況把握と少子化対策 (神奈川県 三重県の事例から)

— 白河桃子 —

少子化ジャーナリスト、相模女子大客員教授

県別男性余剰率と出生率： 男性未婚者が女性未婚者よりどれぐらい多いのか？



少子高齢化、人口減少の鍵は女性

女性が産みたいという気持ちになるには？
両立可能な安定した仕事が不可欠

若年女性はなぜ地元を出て行くのか？
両立可能な安定した仕事がないから

男性が一家を養えた時代

- 非正規→結婚を希望
- 地元に残る

男性が一家を
養えない時代

- 非正規→正規を希望→
結婚を希望
- 地元を出て行く

少子化対策支援事業前の調査

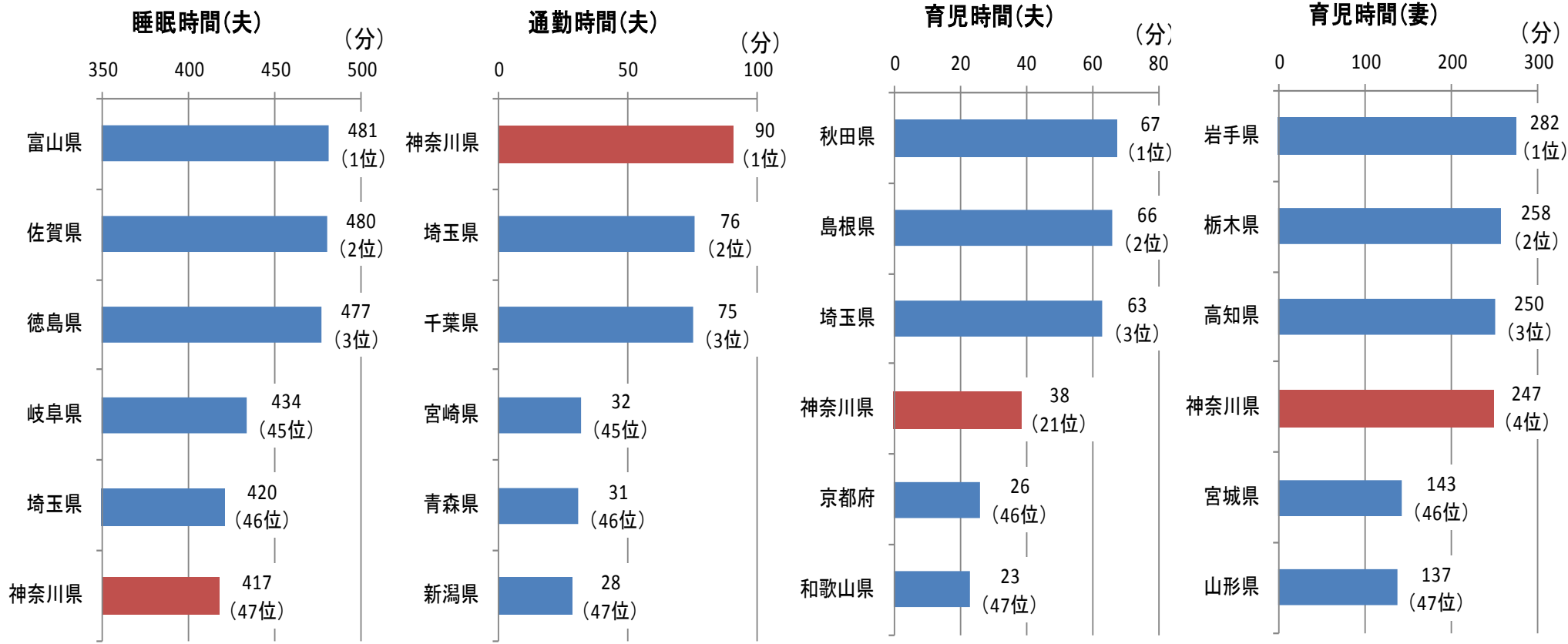
事業を行う前に、独身者の人数、男女比、年齢構成、年収、正規非正規などの把握が必要。

- ①非正規の男性が多い地域 婚活より女性の定住支援
「嫁来い」婚活は限界。女性の雇用を創設して定住促進
(例、福島県昭和村 からむし織の職人の養成)
- ②非正規の女性が多い地域 婚活より雇用支援
非正規女性が出産、子育てと両立して収入を失わない工夫が必要
- ③都市部で女性の雇用があり、女性の数が多い地域
子育て、両立環境の整備と婚活支援
- ④都市のベッドタウン 通勤距離が長い
ベッドタウン機能に徹する。男女ともに就業継続できるよう
子育て、両立環境の整備
- ⑤過疎地 男女ともにいない 定住促進

神奈川県における少子化対策について

平成27年9月3日
神奈川県地方創生会議に提出
神奈川県作成のデータより

都道府県別の夫婦のライフスタイルの比較 (第1回会議資料から)



(出所)平成23年社会生活基本調査

県内市町村の状況分析（特徴別分類）

自治体名	主要指標	合計特殊出生率に影響を与える要素				その他の指標	
	合計特殊出生率	若年女性婚姻率	独身男女比率 (女性未婚 /男性未婚)	三世帯世帯比率	共働き世帯比率	女性人口減少率	第3児以降の割合
神奈川県	中	やや低	男性超過	低	やや低	中	低
綾瀬市・開成町	高	高		低	やや低	中	やや高・やや低
南足柄市・大井町・愛川町	中・やや高	やや高		高	やや低	中～高	高・やや高
大和市・伊勢原市・寒川町	中	やや高		低	やや低	中～やや高	やや高～低
小田原市	中	中		中	中	中	中
横浜市・川崎市・相模原市・平塚市・藤沢市・茅ヶ崎市・厚木市・海老名市・座間市	中・やや低	やや低・中		低	中・やや低	やや低～やや高	中・低
横須賀市・鎌倉市・逗子市・秦野市・葉山町・大磯町・二宮町	中・やや低	やや低・低		やや低・低	やや低	やや高	やや高～やや低
三浦市・中井町・松田町・山北町・湯河原町・真鶴町	やや低・低	低		高	中・やや高	やや高・高	高・やや高
清川村	やや低	低		中	中	高	やや高
箱根町	低	低		高	高	※ 人口増加	中

分析から得られた結果

① 若年女性婚姻率と合計特殊出生率

若年女性婚姻率が高い自治体において合計特殊出生率が高く、若年女性婚姻率が低い自治体で合計特殊出生率が低い傾向がある。

② 三世代世帯比率と第三児以降の出生

子育て世帯に占める三世代世帯比率が高い自治体は、総出生数に占める第3児以降の出生数の割合が高い傾向がある。

③ 共働き世帯比率と合計特殊出生率

共働き世帯比率が高い自治体において合計特殊出生率が低く、共働き世帯比率が低い自治体において合計特殊出生率が高い。という全国の傾向と逆行する傾向がある。

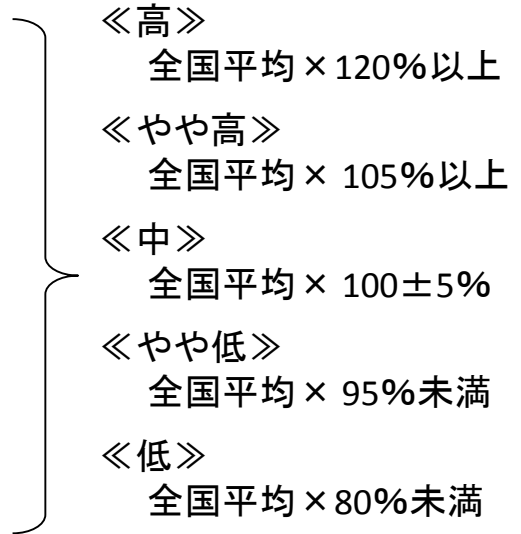
(参考) 各指標の定義

《主要指標》

- ・「合計特殊出生率」
… 15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計した数値(平成20～24年人口動態保健所・市区町村別統計)
《高》1.7以上 《やや高》1.45以上 《中》1.30(神奈川県平均)以上 《やや低》1.15以上 《低》1.15以下

《合計特殊出生率に影響を与える要素》

- ・「若年女性婚姻率」
… 29歳以下の女性の婚姻率(平成22年国勢調査)
- ・「独身男女比率」
… 20-49歳の未婚女性／未婚男性(平成22年国勢調査)
- ・「三世帯世帯比率」
… 6歳以下の子供がいる世帯のうち三世帯世帯が占める割合(平成22年国勢調査)
- ・「共働き比率」
… 共働き夫婦の世帯数／就業者がいる夫婦の世帯数(平成22年国勢調査)



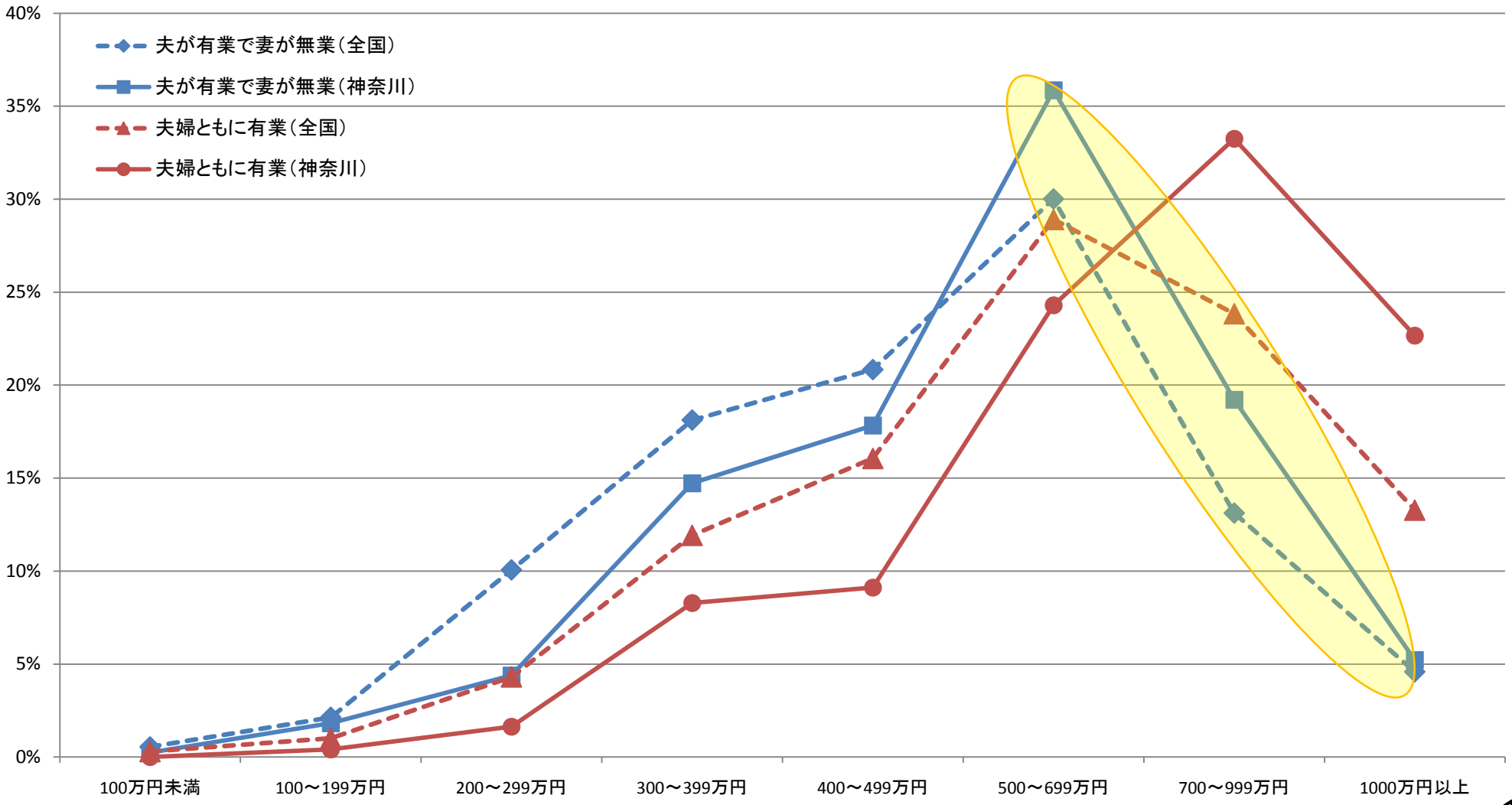
《その他の指標》

- ・「女性人口減少率」
… 20～39歳の女性人口の減少率(平成20～24年神奈川県年齢別人口統計調査)
《高》減少率15%以上 《やや高》10%以上 《中》5%以上 《やや低》0%以下
※箱根町のみ、対象年において20～39歳人口が増加。

- ・「第3児以降の割合」
… 第3児以降の出生数／全出生数(平成20～24年神奈川県年齢別人口統計調査)

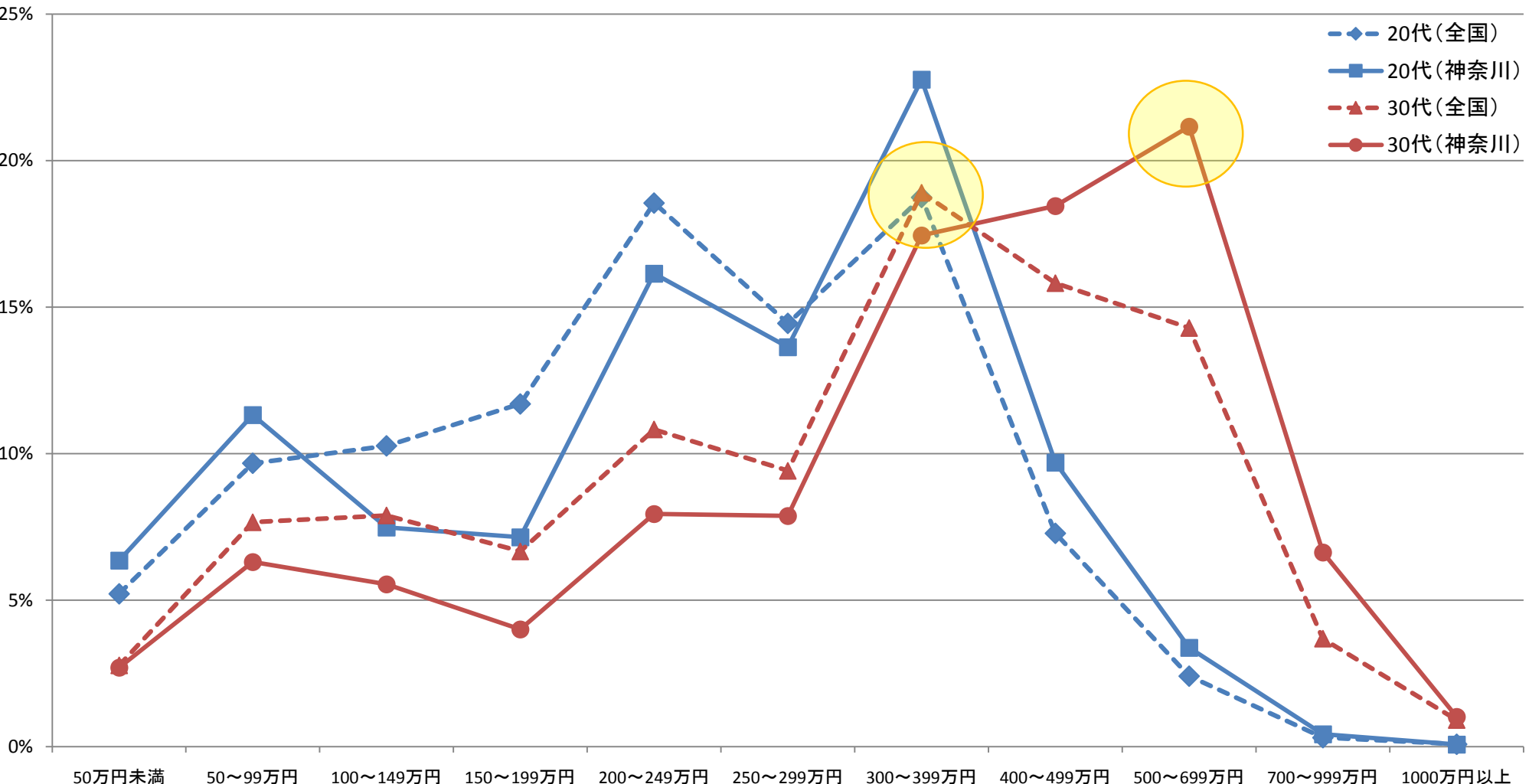
● 「夫が有業で妻が無業」世帯で、世帯所得500万円以上の割合は、全国：47.7%、神奈川60.3%となっている。「夫婦ともに有業」世帯も全国より神奈川の方が高い所得世帯の割合が大きい。

夫婦の就業状況別・世帯所得階級構成(夫婦と子供からなる世帯・6歳未満の子供あり)



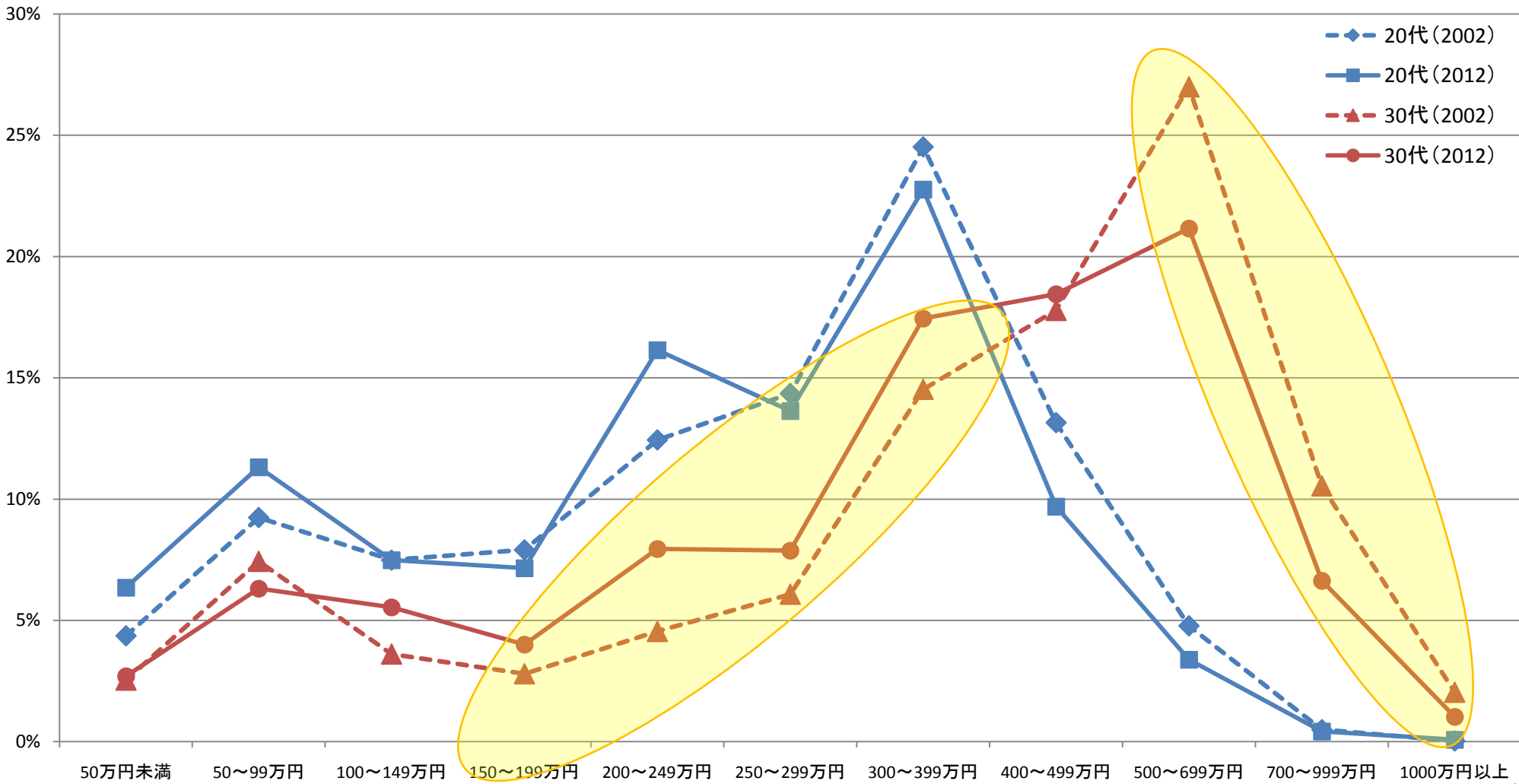
● 全国に比べ、神奈川県は高い所得を得ている層が多い。特に30代では、全国の山が300～399万円にあるのに対し、神奈川県の山は500～699万円にある。

所得階級別・年代別雇用者(男女)構成の全国比較



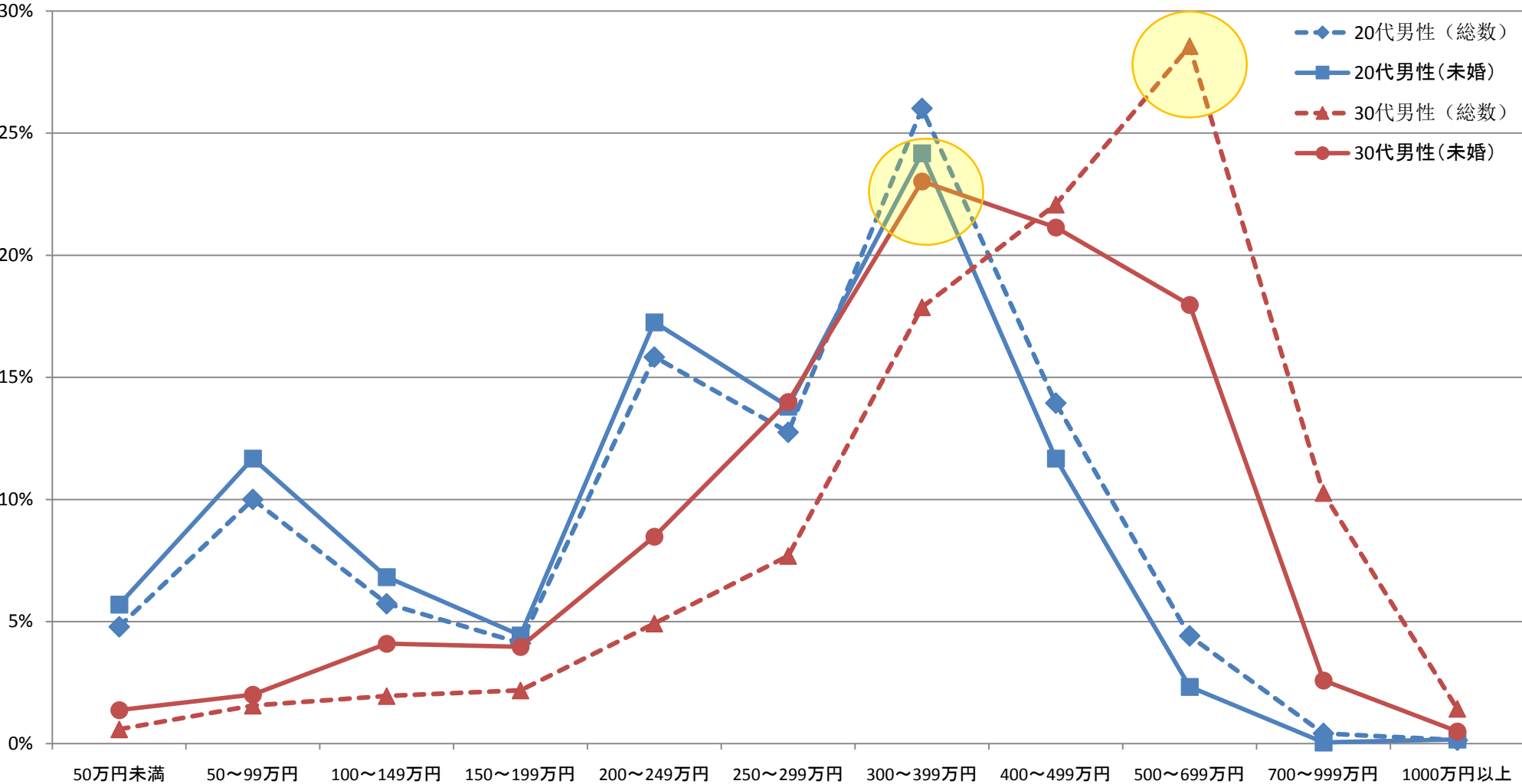
● 神奈川県内の雇用者所得の10年間の変化をみると、30代において、500万円以上の所得層が減り、100万～400万円台の所得層が増えている。

所得階級別・年代別雇用者(男女)構成の時点比較



● 男性の所得では、30代全体の山が500～699万円にあるのに対し、未婚者に絞った際の山は300～399万円にある。

所得階級別・年代別雇用者(男性)構成の未婚者比較



分析結果概要

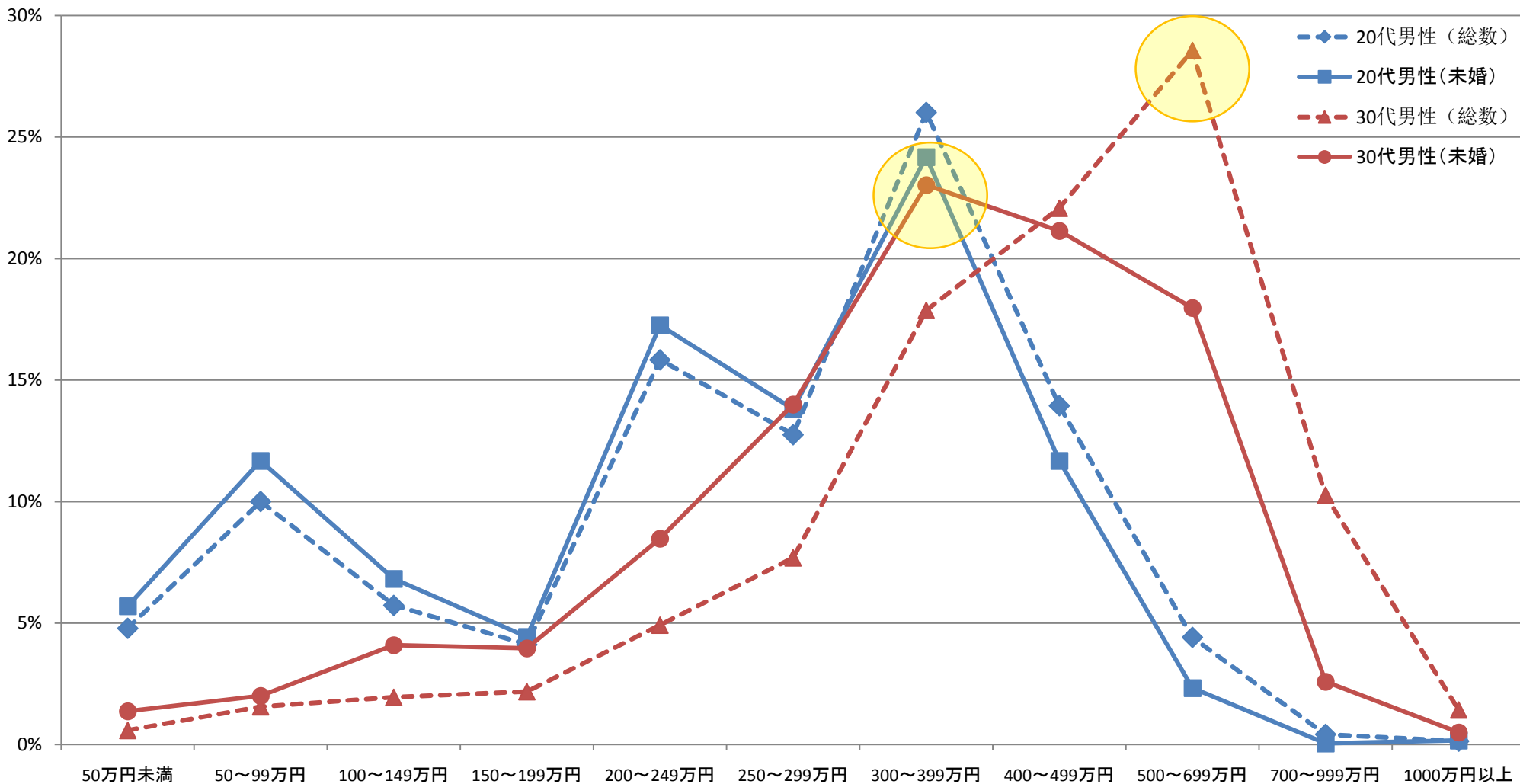
- 30代男性は、正規・非正規に関わらず所得が高いと未婚率が低い。(④)
- 20代・30代の既婚等男性の大半が300万円以上の所得を得ている。(①')
- **非正規雇用の30代男性の約70%が299万円以下の所得となっている。(③)**
- **30代未婚女性の約50%が300万円以上の所得を得ている。(②')**
- 20代・30代ともに既婚等女性の約40%が149万円以下の所得となっている。(②')
- **30代未婚男性の約65%が300万円以上の所得を得ている。(①')(①'')**
- **所得300～399万円 の30代正規雇用の男性の未婚率は約50%。(④)**

【留意点】

- ・元データは、「雇用者」に関するデータとなっており、専業主婦(夫)や自営業者等は対象外となっています。
- ・①②は、総数(全体)と未婚者の比較で、①' ②' は既婚者等(総数－未婚者)と未婚者の比較です。
- ・③④は、30代に絞ったデータとなっています。
- ・④は、構成率1%未満の所得層のデータはグラフに反映していません。(例:所得50万円未満の30代男性(正規))

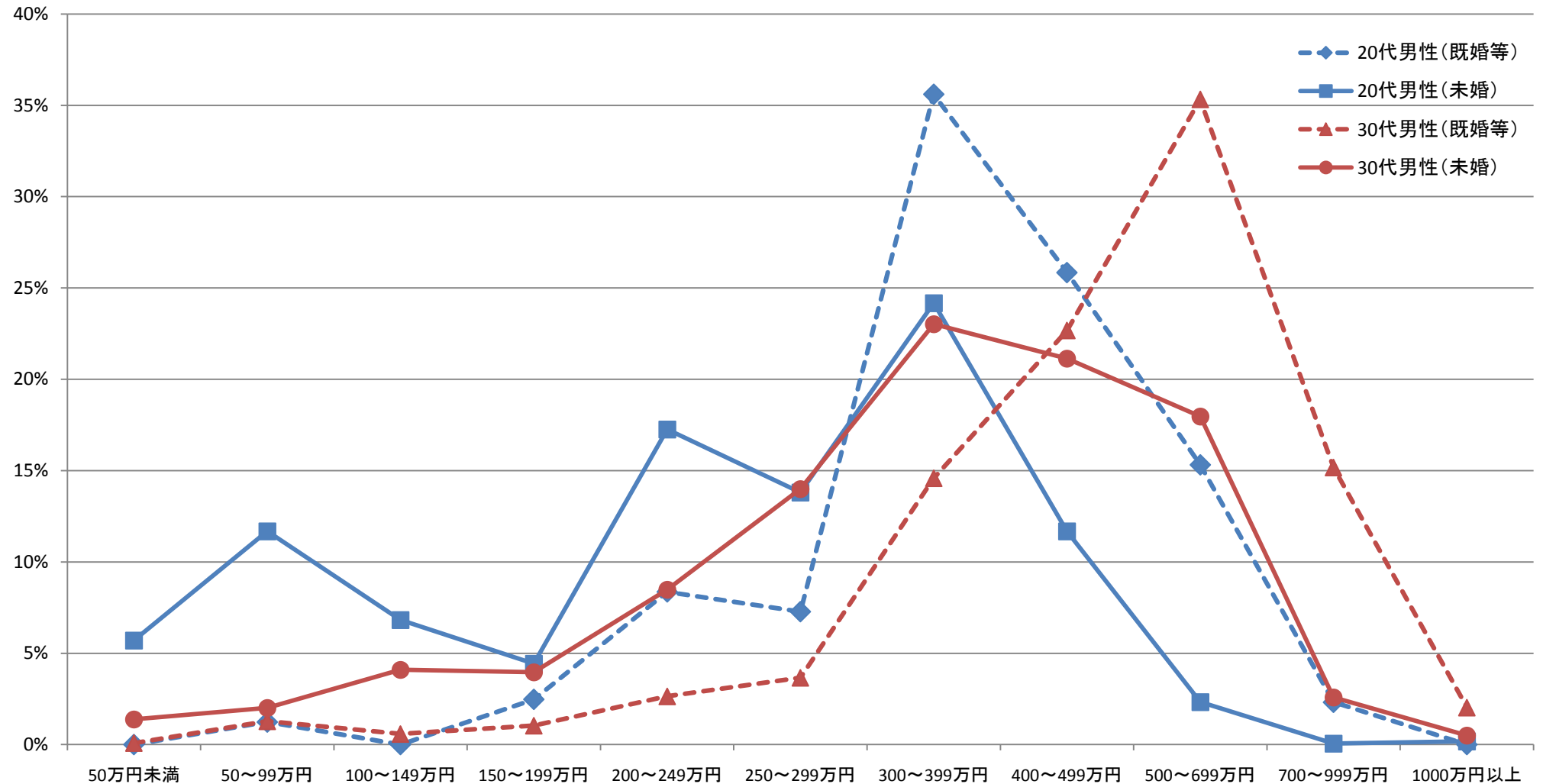
① 男性の所得では、30代全体の山が500～699万円にあるのに対し、未婚者に絞った際の山は300～399万円にある。

所得階級別・年代別雇用者(男性)構成の未婚者比較



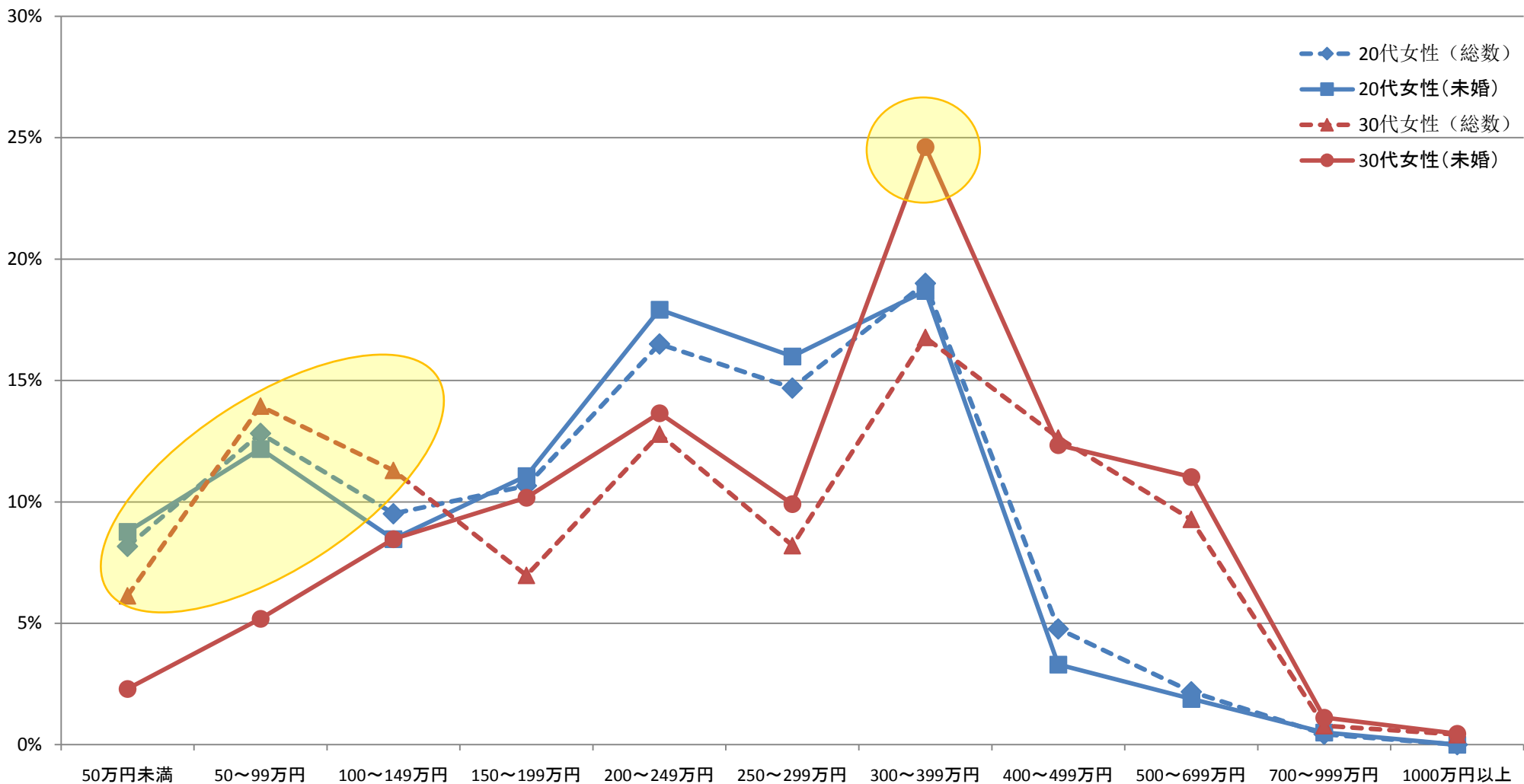
①' 20代既婚等男性の約80%、30代既婚等男性の約90%が300万円以上の所得を得ている。20代未婚男性のうち約40%、30代未婚男性のうち約65%が300万円以上の所得を得ている。

所得階級別・年代別雇用者(男性)構成の未婚者・既婚者等比較



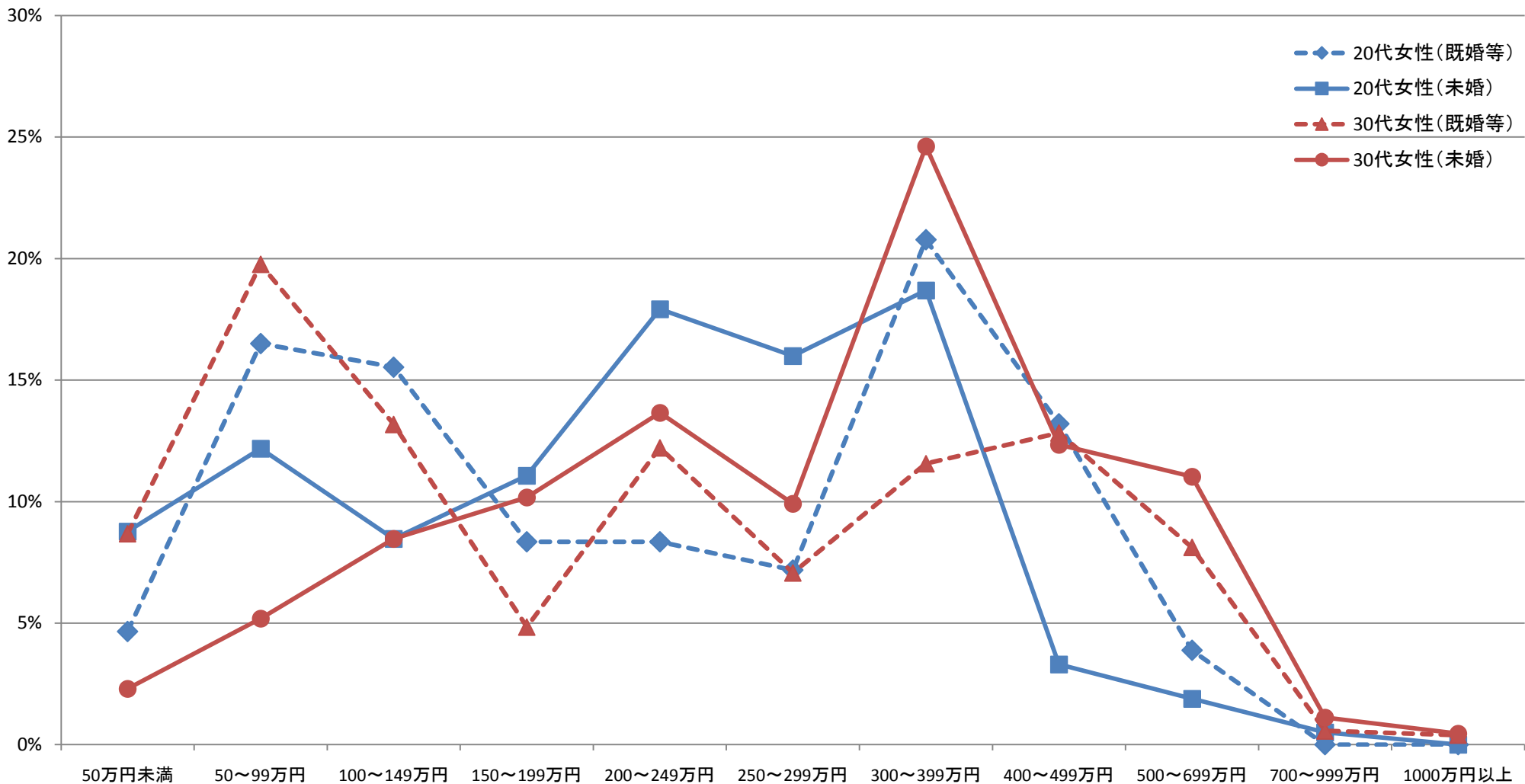
- ② 30代未婚女性の約25%が300～399万円の所得を得ている。30代女性全体で149万円以下の所得層が多い理由は、既婚女性が退職し、非正規雇用に使われている可能性が考えられる。

所得階級別・年代別雇用者(女性)構成の未婚者比較



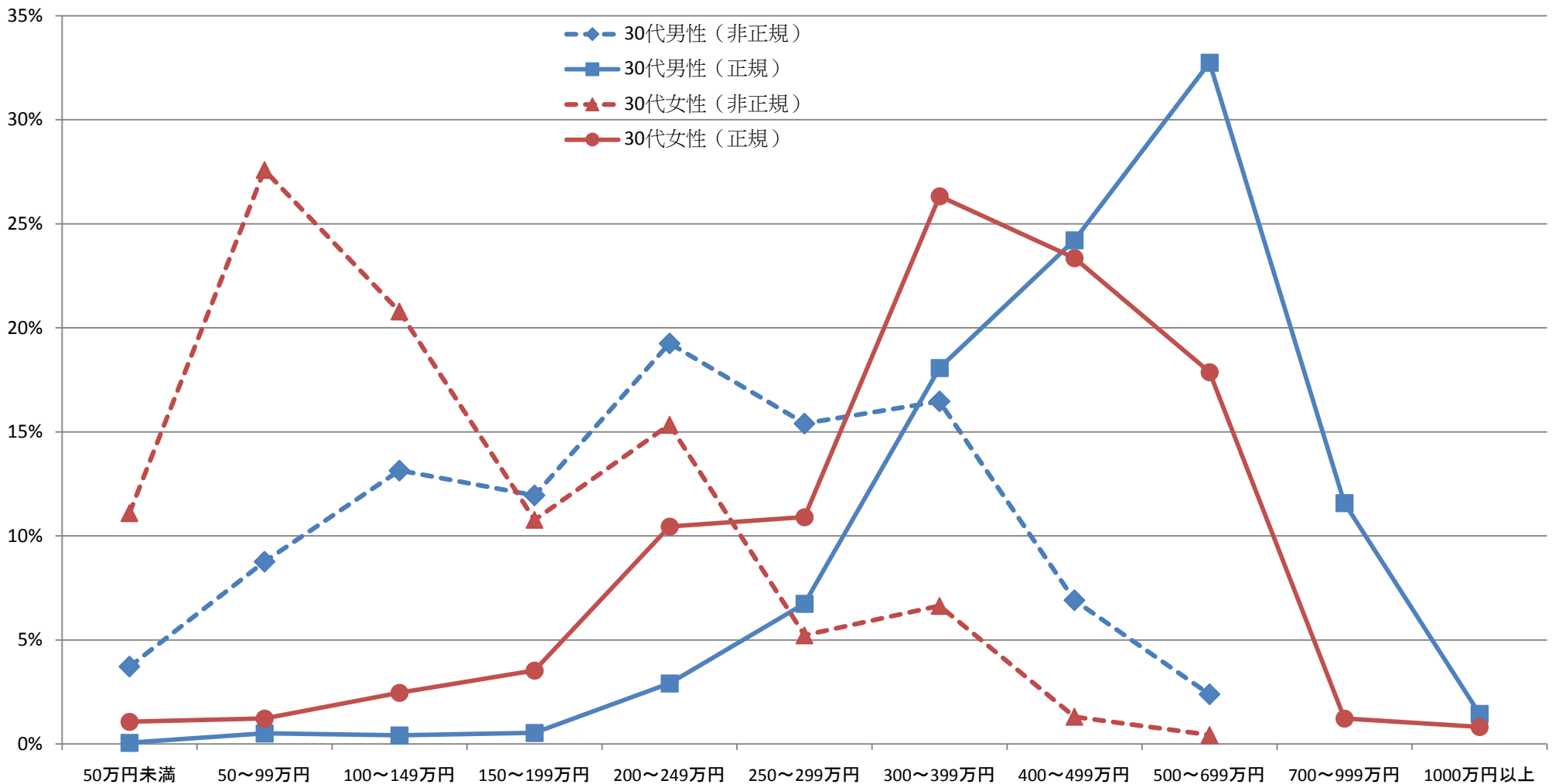
②' 20代・30代既婚女性のうち約40%は149万円以下の所得となっている。30代未婚女性の約25%は300～399万円の所得を得ている。

所得階級別・年代別雇用者(女性)構成の未婚者・既婚者等比較



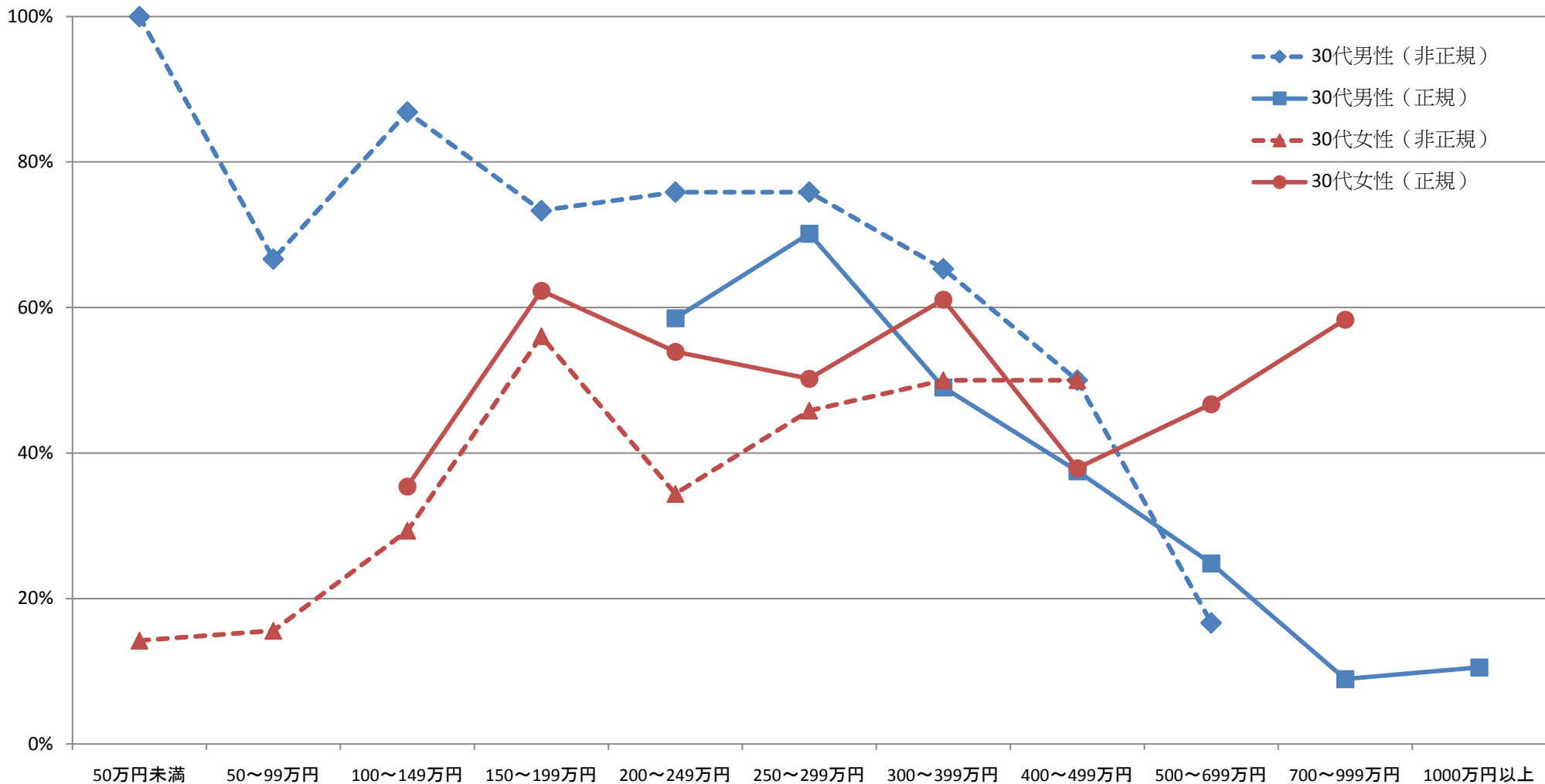
③ 30代男性で正規雇用の約10%、非正規雇用の約70%が299万円以下の所得となっている。30代女性ではより顕著な差が出ており、非正規雇用の約90%が299万円以下の所得となっている。

所得階級別・男女別雇用者構成の正規・非正規比較



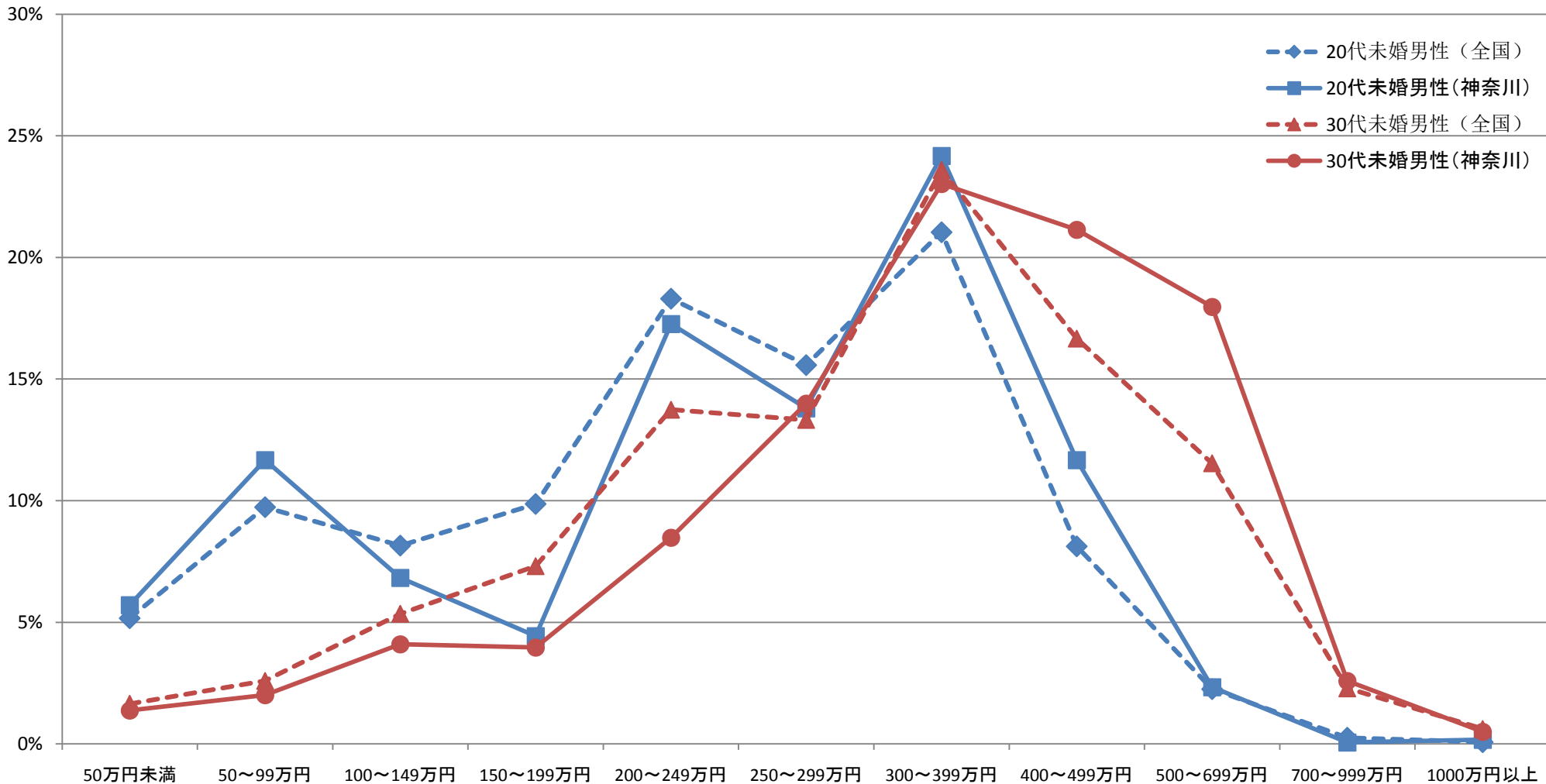
④ 30代男性は、正規・非正規を問わず、所得が高くなるほど未婚率が低くなる傾向がある一方、低い所得層ほど未婚率が低くなっている。

所得階級別・男女別未婚者比率の正規・非正規比較



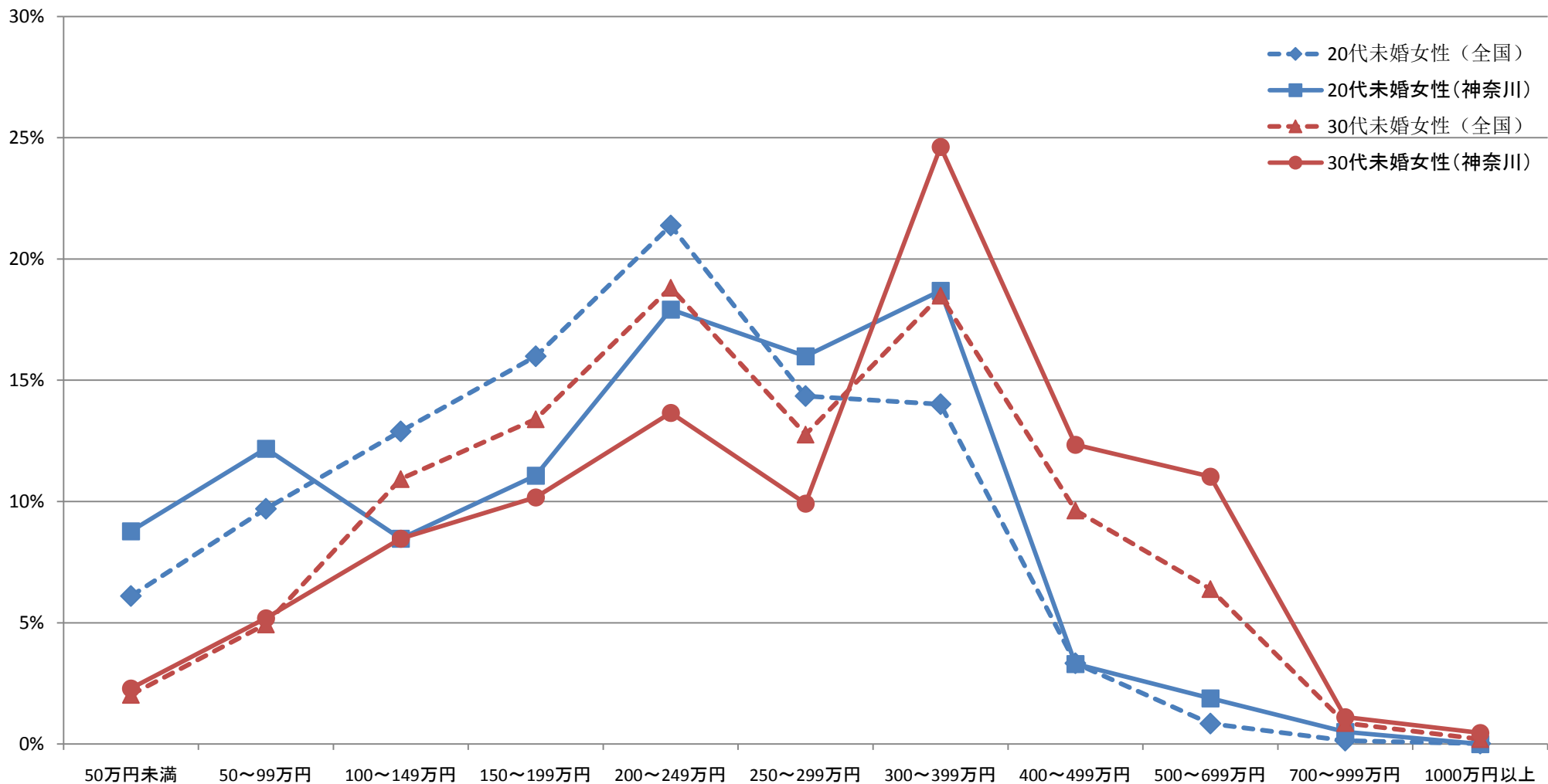
①' ' 20代未婚男性のうち300万円以上の所得を得ている割合 全国31.75% : 神奈川38.43%
 30代未婚男性のうち300万円以上の所得を得ている割合 全国54.70% : 神奈川65.23%

所得階級別・年代別雇用者(男性)構成の全国・神奈川比較



②' ' 20代未婚女性のうち300万円以上の所得を得ている割合 全国18.35%：神奈川24.40%
 30代未婚女性のうち300万円以上の所得を得ている割合 全国35.60%：神奈川49.57%

所得階級別・年代別雇用者(女性)構成の全国・神奈川比較



【神奈川県向けの提案 白河】

女性の就業継続力を上げ、男性の家庭力をあげて 結婚、子ども数を増やす

通勤時間が長い(東京のベッドタウン的性格) また神奈川県の未婚者の年収は全国に比較すると高い
男性独身者余剰率が高い 独身男性の年収は既婚男性より低い
独身女性は低年収の人だけではない。しかし、年収が300万以上でも、遠距離通勤のため、子育て期間の就業が難しい



男女ともに低年収層だけが未婚ではない。しかし遠距離通勤のため、出産退職で世帯年収が2分の1になる



収入の低い男性の結婚意欲が落ちる

この問題を打破するためには、専業主婦モデルでない家庭への支援が重要。

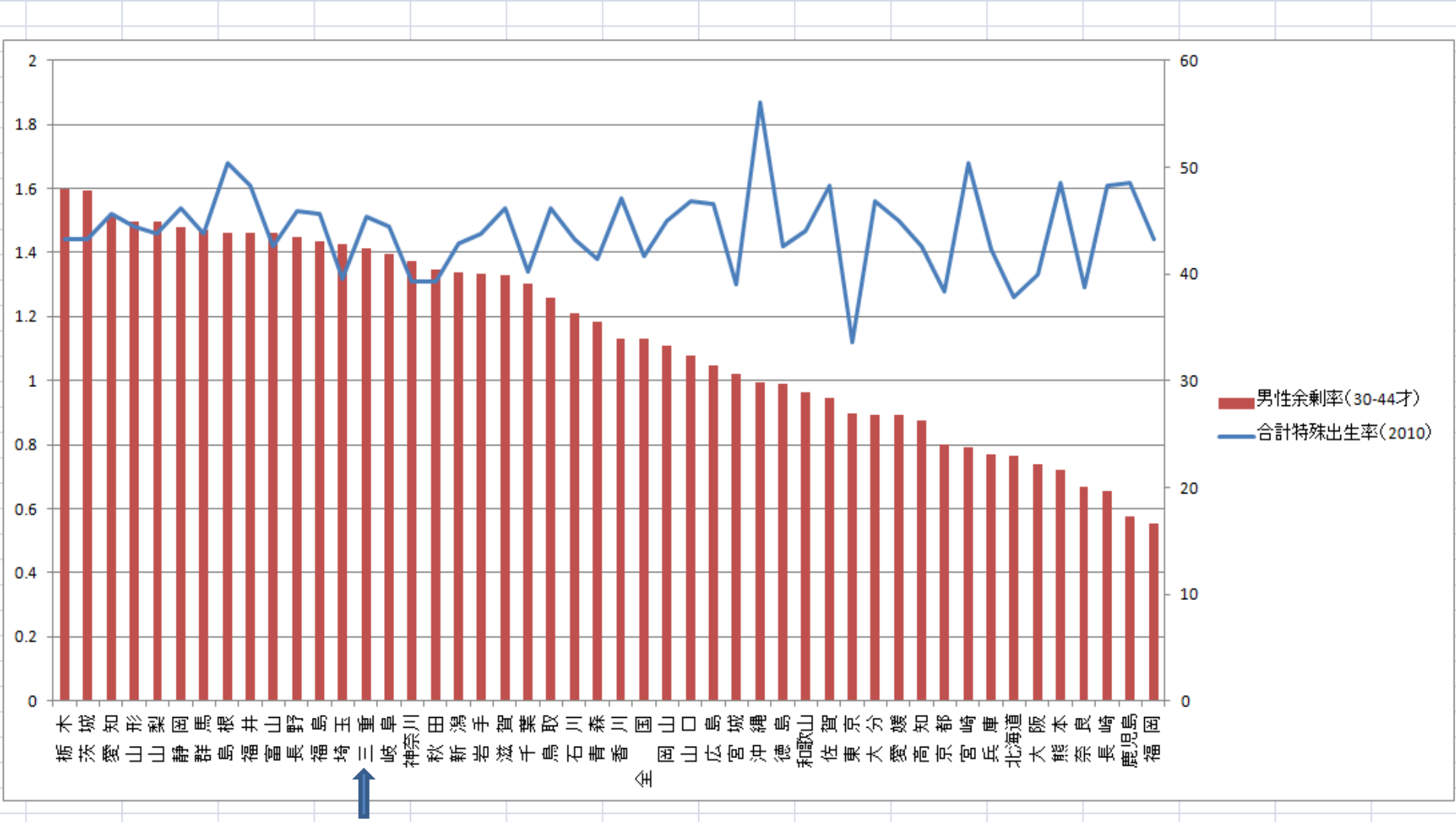
女性の就業継続の応援、遠距離通勤での両立環境の充実、男性が家庭に参画し、夫婦共稼ぎで、家族で夕食の食卓を囲める神奈川県になることが必要です。

- ①女性の雇用とセットの定住支援 や、遠距離通勤を超えて両立できる支援 (例:千葉県流山市)
女性が安定した両立できる仕事を得られる神奈川県に!
- ②マタハラ研修の義務づけ
出産で女性が仕事を失い収入ゼロになることが、結婚や子育てへの不安の要因
企業へのマタハラ研修を義務づけ、均等室など相談窓口の強化
- ③労働時間政策
長時間労働をやめ、社員のワークライフバランスを促進する企業にインセンティブを。

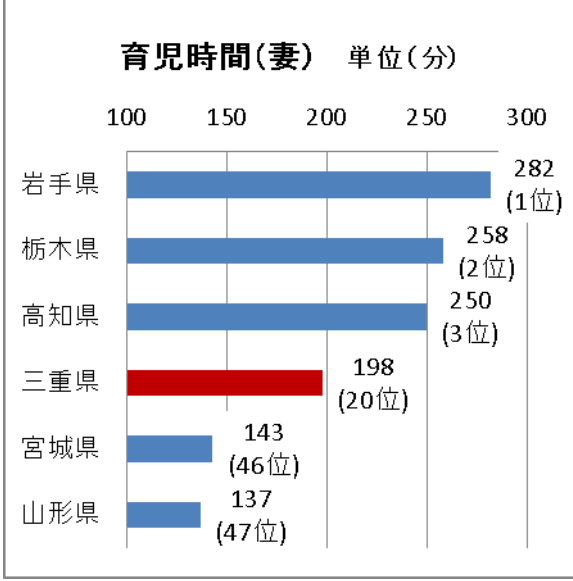
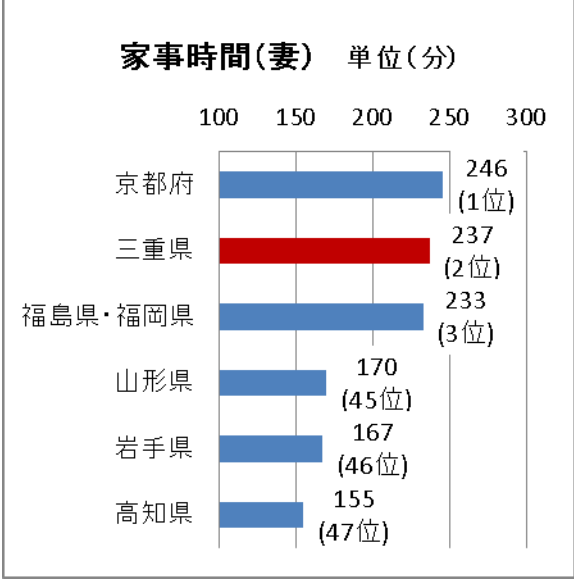
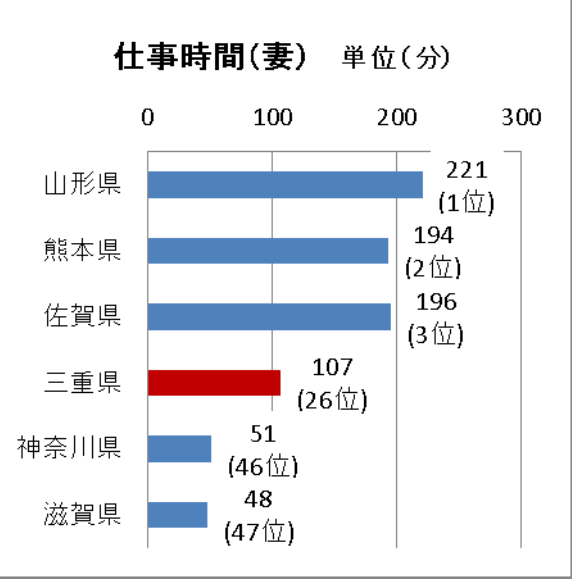
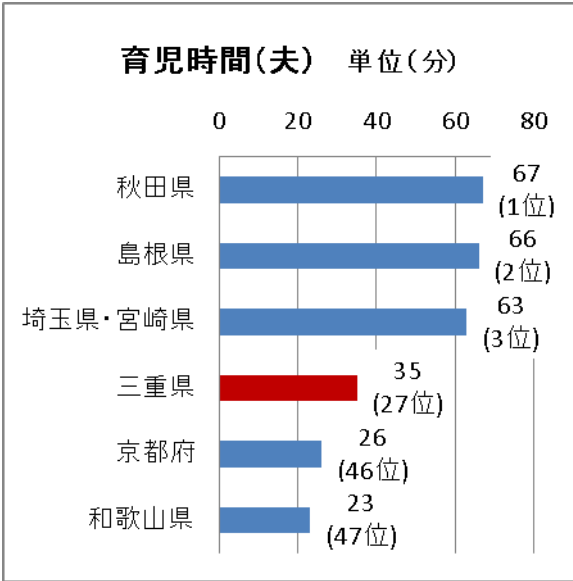
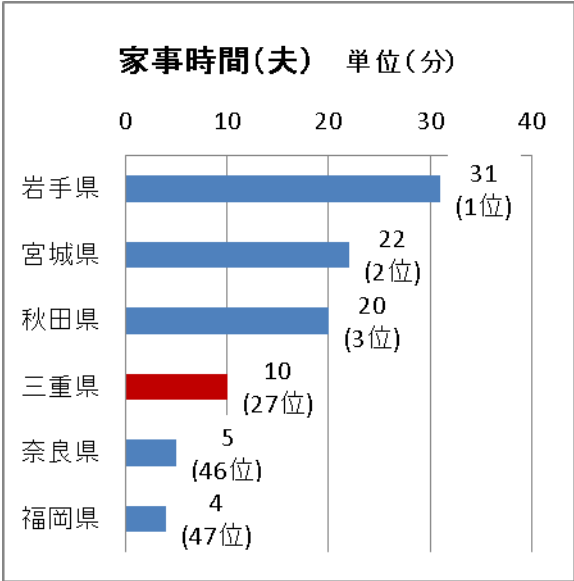
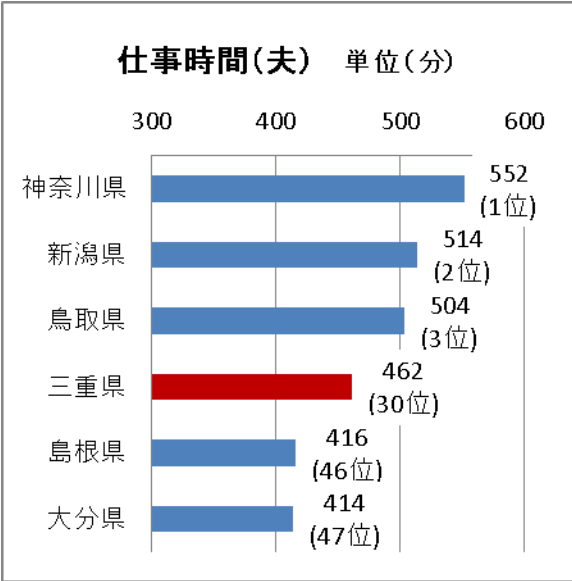
三重県における結婚関連データについて

平成27年10月1日
三重県作成

県別男性余剰率と出生率： 男性未婚者が女性未婚者よりどれぐらい多いのか？



都道府県別の夫婦のライフスタイルの比較



県内市町村の状況分析（特徴別分類）

自治体名		主要指標	合計特殊出生率に影響を与える要素				その他の指標	
		合計特殊出生率	若年女性婚姻率	独身男女比率 (女性未婚／男性未婚)	三世代世帯比率	共働き世帯比率	女性人口減少率	第3児以降の割合
三重県			やや高	男性超過 やや高	やや高	やや高	やや高	中
四日市市	北勢	中	やや高	男性超過 やや高	やや低	中	中	やや低
桑名市、いなべ市 木曾岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町	北勢	中	やや高	男性超過 やや高	やや高	やや高	中	中
鈴鹿市、亀山市	北勢	中	高	男性超過 高	中	中	やや高	中
津市	中南勢	やや低	中	男性超過 中	中	やや高	中	やや低
松阪市 多気町、明和町、大台町	中南勢	中	高	男性超過 中	高	やや高	やや高	中
伊勢市、鳥羽市、志摩市 玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町	伊勢志摩	やや低	中	男性超過 中	高	やや高	やや高	やや高
名張市、伊賀市	伊賀	やや低	やや高	男性超過 やや高	高	やや高	中	中
尾鷲市 紀北町	東紀州	やや高	高	男性超過 やや高	中	やや高	高	高
熊野市 御浜町、紀宝町	東紀州	高	やや高	男性超過 中	低	やや高	高	やや高

(参考) 各指標の定義

《主要指標》

・「合計特殊出生率」

… 15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計した数値(平成25年人口動態統計 保健所・市区町村別統計)

《高》2.0以上 《やや高》1.60以上 《中》1.49(三重県平均)以上 《やや低》1.40以上 《低》1.39以下

《合計特殊出生率に影響を与える要素》

・「若年女性婚姻率」

… 29歳以下の女性の婚姻率(平成22年国勢調査)

・「独身男女比率」

… 20-49歳の未婚女性／未婚男性(平成22年国勢調査)

・「三世帯世帯比率」

… 6歳以下の子供がいる世帯のうち三世帯世帯が占める割合(平成22年国勢調査)

・「共働き比率」

… 共働き夫婦の世帯数／就業者がいる夫婦の世帯数(平成22年国勢調査)

《高》
全国平均 × 120%以上
《やや高》
全国平均 × 105%以上
《中》
全国平均 × 100±5%
《やや低》
全国平均 × 95%未満
《低》
全国平均 × 80%未満

《その他の指標》

・「女性人口減少率」

… 20～39歳の女性人口の減少率(平成20年及び25年 人口動態統計 保健所・市区町村別統計)

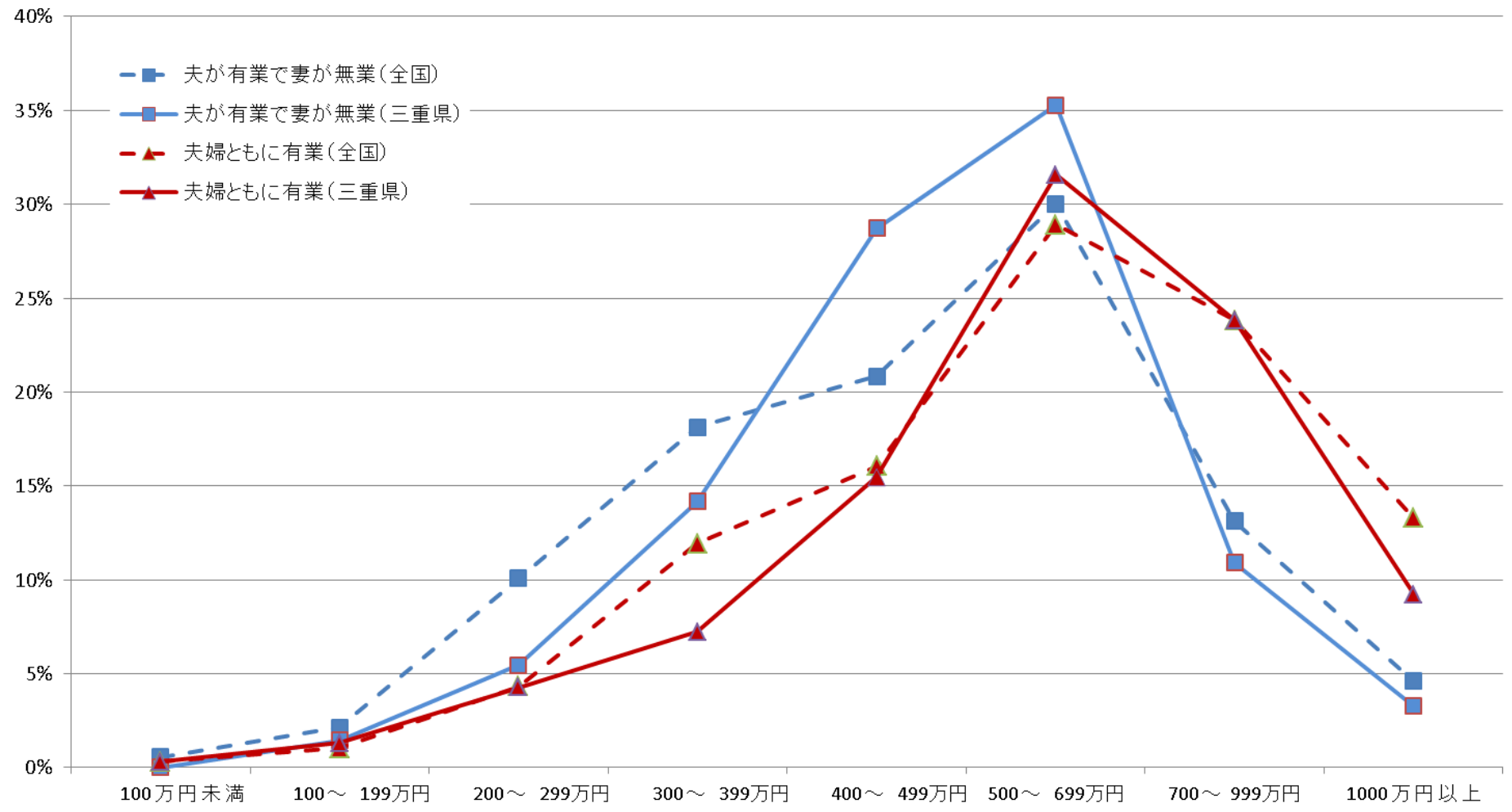
《高》減少率25%以上 《やや高》15%以上 《中》5%以上 《やや低》0%以上

・「第3児以降の割合」(三重県:全国30位)

… 第3児以降の出生数／全出生数(平成25年 人口動態調査資料を元に三重県調べ)

●「夫が有業で妻が無業」世帯で、所得400万円～699万円の所得において、世帯の割合は、全国より三重県が高くなっている。「夫婦ともに有業」世帯は、ほぼ全国と同様である。

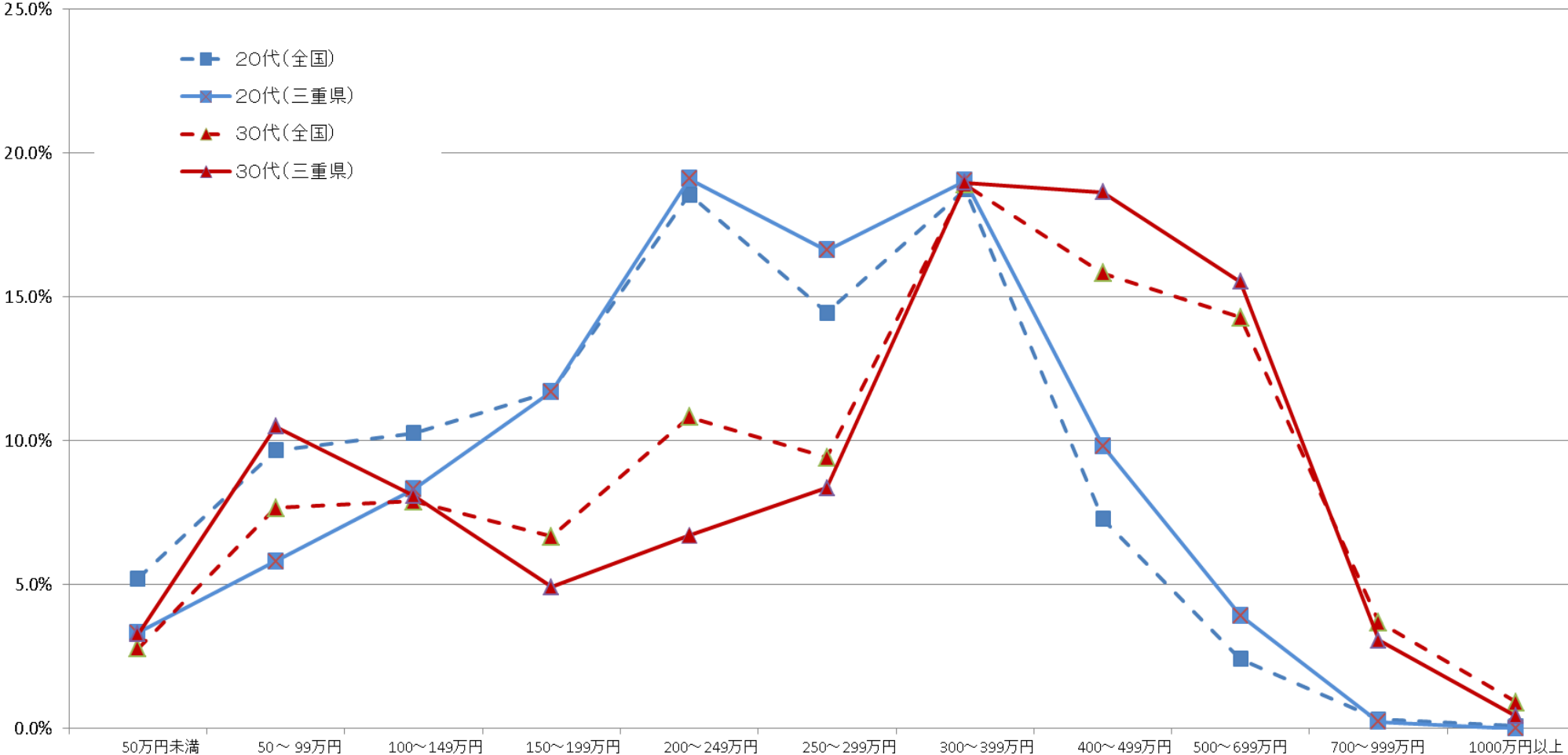
夫婦の就業状況別・世帯所得階級構成(夫婦と子供からなる世帯・6歳未満の子供あり)



出典:総務省「平成24年就業構造基本調査」

● 30代を見ると、三重県は 150～299万円の所得の層が全国より少なく、100万円未満の所得の層が全国より多い。

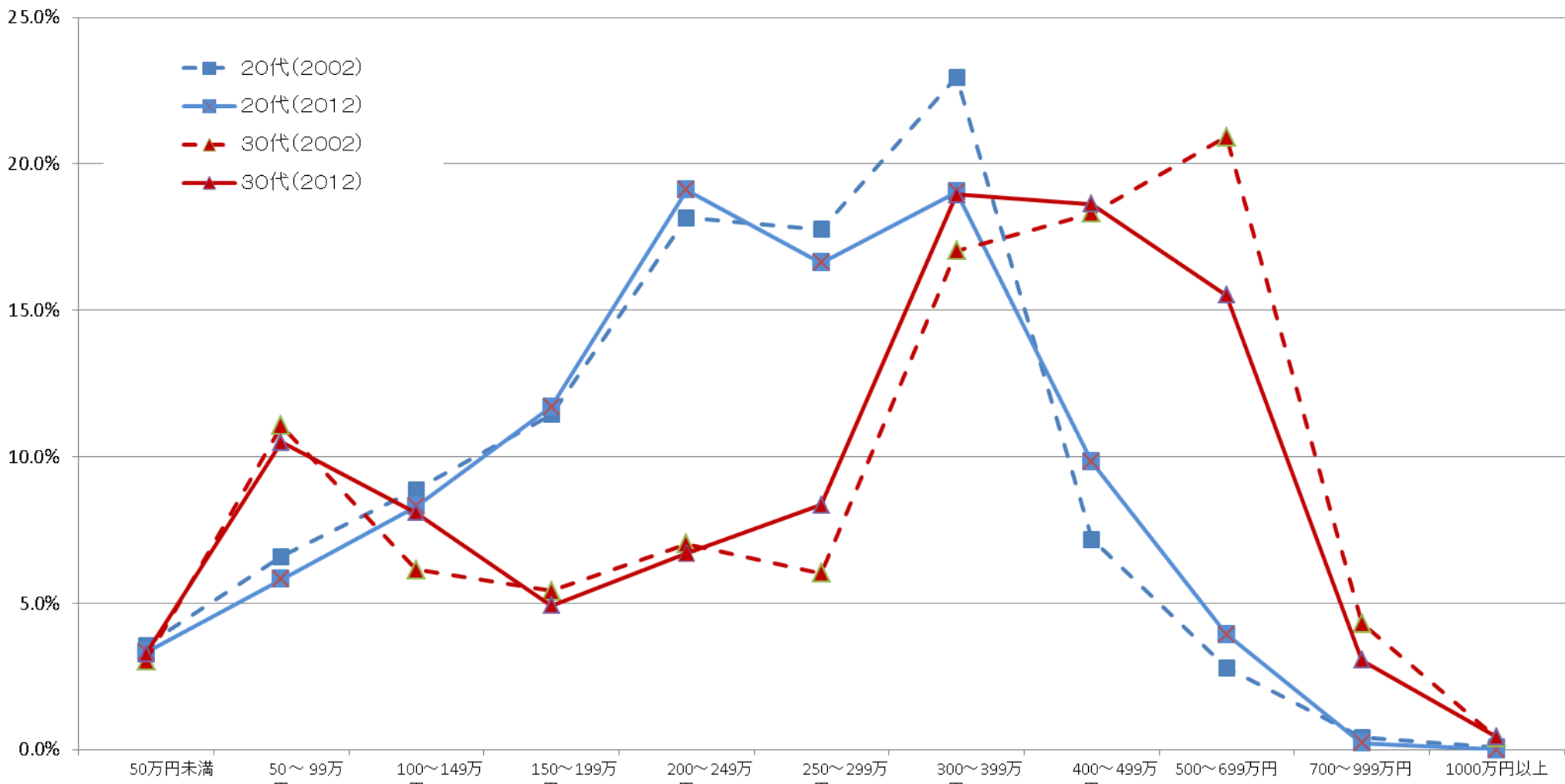
所得階級別・年代別雇用者(男女)構成の全国比較



出典：総務省「平成24年就業構造基本調査」

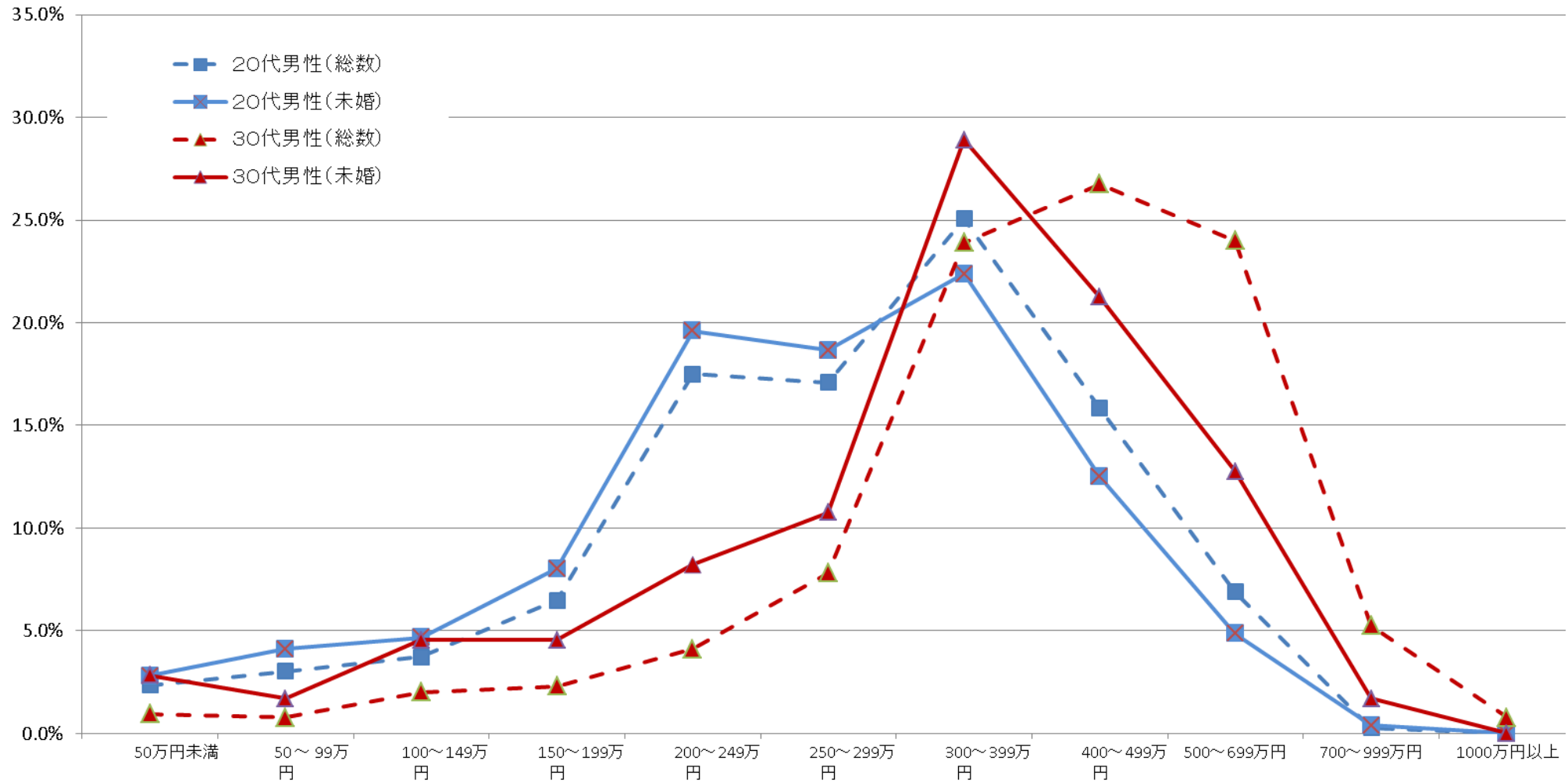
● 三重県内の雇用者所得の10年間の変化をみると、20代において400万円を超える所得層が増えて
いるが、30代においては500万円以上の所得層が減り250万～400万円台の所得層が増えている。

所得階級別・年代別雇用者(男女)構成の時点比較(三重県)



● 三重県における男性の所得では、特に30代において、未婚者の所得が低い状況が見られる。

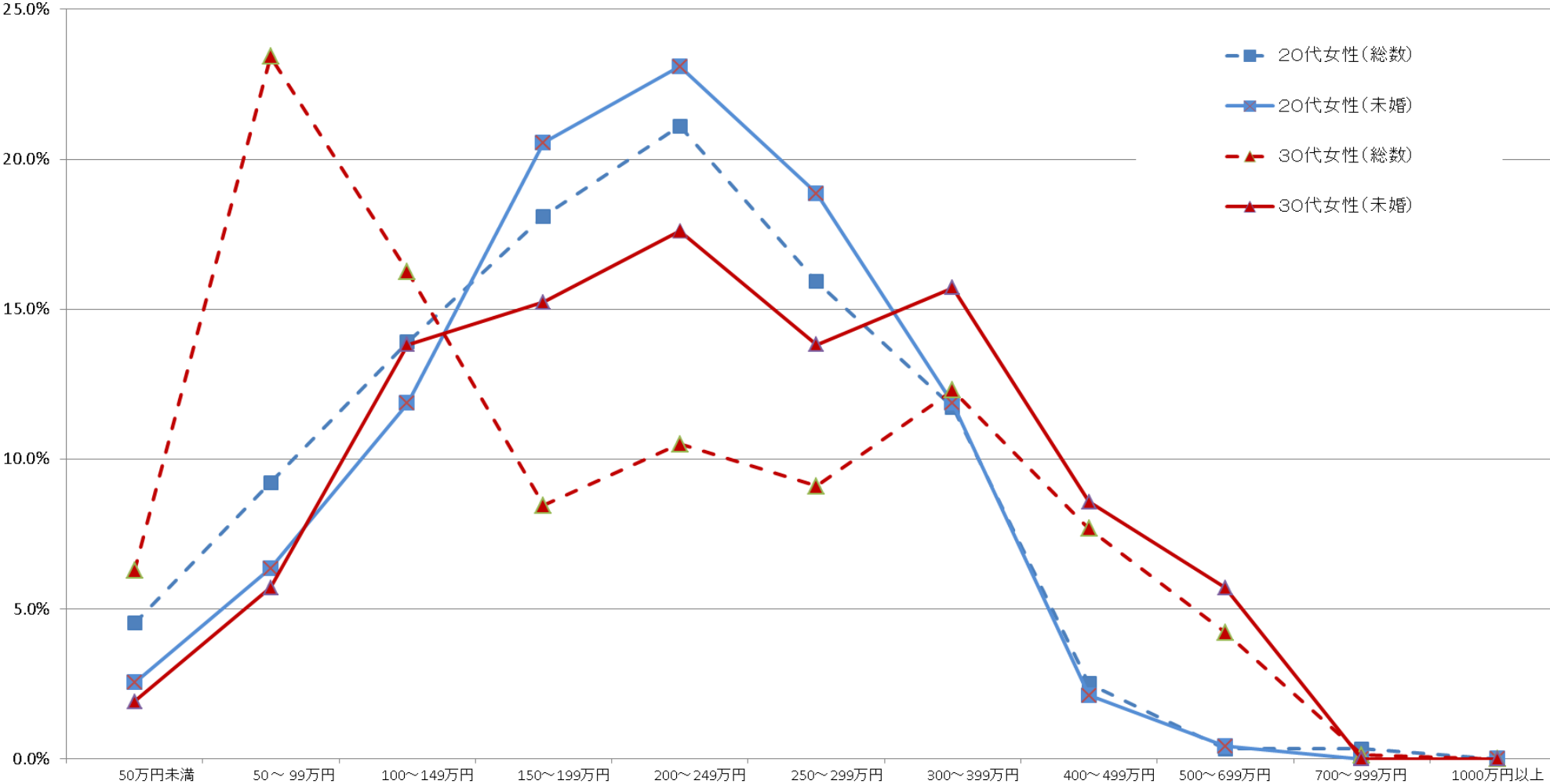
(三重県)所得階級別・年代別雇用者(男性)構成の未婚者比較



出典：総務省「平成24年就業構造基本調査」

● 三重県における女性の所得階級を見ると、特に30代において、全体平均（総数）と未婚者の中で所得階層が大きく差がある状況が見られる。

(三重県)所得階級別・年代別雇用者(女性)構成の未婚者比較



(参考) 三重県における未婚者の所得において、男性は300～399万円に、女性は200～249万円に所得階層の山があるが、特に30代の男性はその他の所得階級との差が大きくなっている。

参考 (三重県) 所得階級別・年代別雇用者(未婚者)構成の男女比較



三重県の未婚者対策

(白河提案)

- 三重県は女性の家事育児時間が長い。
- 三重県は20代30代女性の所得が少ない
- 三重県は女性の正規雇用者比率が全国38位

- 三重県は男性あまり県全国14位
- 全国的に20代30代未婚男性の年収は既婚者より低い
三重県は全国に比べて30代男性の年収が低い

三重県の未婚者対策

(白河提案)

□女性の経済的エンパワメント

雇用の支援

非正規女性の就業継続支援 マタハラ対策

■男性の家庭参加エンパワメント

イクメン養成 イクボス養成

長時間労働の是正 (家庭での時間を増やす)

【提案1】 正規女性だけでなく非正規女性の活躍支援も！ 地方では女性の経済的エンパワメントが最重要課題

地方の結婚、出産支援には、女性非正規の就業継続支援が少子化対策

同じ県内でも、女性の雇用がある都市部と周辺部では
独身の男女比がアンバランス

正規女性だけでなく、非正規の女性の就業継続支援が鍵になる

- 育休法改正で、非正規の産休育休取得3要件の緩和を
- マタハラ防止研修の義務づけ

男女ともに年収300万円以内でも共働きでカップルになり子どもを持つ
支援モデルが必要

(えひめ結婚支援センターによれば 女性の結婚相手の年収希望は250～300万円)

【提案2】

すでに産まれている子どもを育むことも 少子化対策

シングルマザー、子どもへの支援を強化

①ハイリスク家庭を早く把握して関係機関につなげる

ネウボラなどをしっかりと活用してハイリスク家庭(不和、DV、貧困など)に寄り添う支援

②シングルマザーに日本一優しいひとり親特区など

62%のシングルマザーが貧困という現状をふまえ、仕事、家、託児環境、移動手段(公共機関がないところでは車など)がセットになった支援でシングルマザーの定住促進など

③児童扶養手当増額(複数子加算) 実現を目指す署名キャンペーン「子どもを5000円で育てられますか？」 『ひとり親を救え！プロジェクト』も開始

教育 妊娠適齢期を含むライフデザイン教育を

- ・男女ともに妊娠適齢期への啓蒙を各発達段階で
- ・女兒には「キャリア教育」男児には「家事育児参画教育」を
- ・サザエさんではなく、共働き家庭、ひとり親家庭など多様なファミリーモデルを見せる

ご清聴ありがとうございました。

白河 桃子

Info.shirakawa@gmail.com

参考文献:

「産むと働くの教科書」 齊藤英和・白河桃子（講談社）

「女子と就活」常見陽平・白河桃子（中公新書ラクレ）

「専業主婦になりたい女たち」白河桃子（ポプラ新書）

「婚活現象の社会学」山田昌弘編著

「平成26年度版少子化社会対策白書」

「ダイバーシティ経営企業100選」